

# 令和5年度秋 子ども図書館おすすめ本

## ★中高生におすすめの本★

### ★『博士の愛した数式』

小川洋子/作 新潮社



事故の障害により80分しか記憶がもたない数学者のもとへ、家政婦の私は派遣される。記憶がもたない彼にとって、私はいつも“新しい家政婦”。ぎこちなく過ごすが、私の10歳の息子が加わるようになってその時間が変化する。博士は息子を「ルート」と命名し、数学をやさしくかみくだいて教える。博士の愛する数字は時にまるで詩のように語られ、三人の心を穏やかにつなぐようになる。

確かに存在した、静かな愛おいしいひとときの物語。

### ★『最後のひと葉』

オー・ヘンリー/作 金原瑞人<sup>みずひと</sup>/訳 岩波書店



アパートに住むジョンジーは画家を夢んでいたが、肺炎になってしまう。やがて「窓から見える隣の家のつたの葉が落ちる時に、自分も一緒に死んでしまう」と思うように。しかし、嵐が来ても、最後のひと葉は落ちなかった。その訳は——。

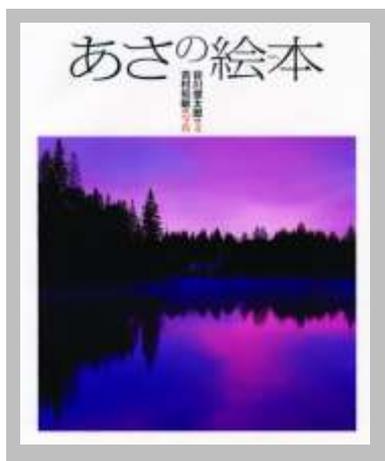
有名な「最後のひと葉」や「賢者の贈り物」の他、どんでん返しの「金と神と恋の使者」など、感動作やユーモラスな作品などが楽しめる14の短編集。

書名だけは知っていた人も、ぜひどうぞ。

---

★『あさの絵本』

谷川俊太郎/文 吉村和敏/写真 アリス館



闇に光がさし、赤紫色の空へ。「おひさまのてが  
ふるれると よるはずかしがって あかくなる」。  
やがて、空と海は金色に染まる。「ひかりが そつと  
はいつてくる ゆめでまいごになった ころのな  
かへ」——。

カナダの美しい風景写真と瑞々しい言葉が、夜の  
終わりから神秘的な薄明りの時間を経て、朝を迎  
えるまでを語る。一刻一刻が美しい。明るい光と  
清々しい空気に深呼吸したくなるような、朝のは  
じまりの写真絵本。

元になった同著者たちの写真詩集「あさ／朝」、  
姉妹版の「ゆう／夕」もあります。

